

4) ヒレグロ資源調査

本田 夏海

目的

ヒレグロは本県沖合底びき網漁業の主要漁獲対象種の一つである。資源の適正な利用を図るため、本種の生態及び資源水準を把握する。

方法

- ①本県沖合底びき網漁業の基地である田後漁協（田後）、鳥取県漁協網代港支所（網代）、鳥取県漁協本所（賀露）の漁獲量を集計した。
- ②上記3漁協（支所）のうち、近年、漁獲の最も多い田後漁協を代表漁協（支所）とし、田後漁協の主要陸揚港である境漁港において水揚げされた漁獲物の体長を測定した。また、漁期中、毎月1回魚体を購入し、体長、体重、性別、生殖腺重量などを測定した。さらに、銘柄別水揚げ量を集計し、前述の生物測定結果等から本県におけるヒレグロの体長別漁獲尾数を算出した。

結果

①1975 - 2005年までの鳥取県における漁獲量の年推移を図1に示した。漁獲量は1984年に1,471トンに達した後、減少傾向に転じ、1994年には191トンにまで減少した。1995年以降は増減を繰り返しながらも微増傾向にあったが、近年は400トン弱で推移しており、2005年は391トンの漁獲量であった。300トン前後で低位ではあるが安定して推移している。本年の漁獲量は前年より20トン減少し374トンであった。

次に、月別漁獲量を図2に示した。2005年1 - 5月は前年、平均（過去5年）を下回り、特に5月は38トンで過去5年では最も少ない漁獲量であった。9 - 12月は逆に前年、平均を上回る漁獲であった。

②漁獲状況調査および生物測定調査から推定した鳥取県における月別雌雄別体長別漁獲尾数を図3及び表1に示した。推定年間漁獲尾数は雌で約390万尾、雄で約80万尾で、雌は前年より約60万尾、雄は約70万尾多い水揚げであった。本年は、雌は年間を通じて体長20cm強に単一のモードをもっており、昨年3 - 9月に出現していた体長18cm前後のモードは消失していた。

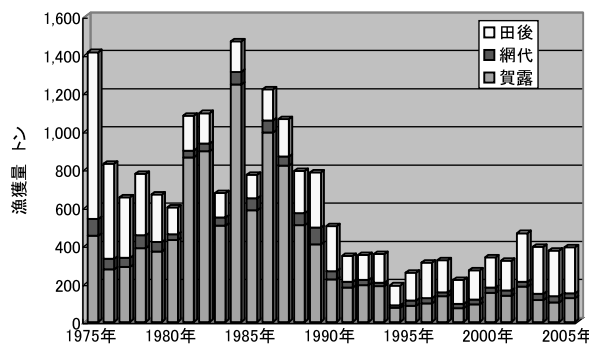


図1 ヒレグロの漁獲量の推移

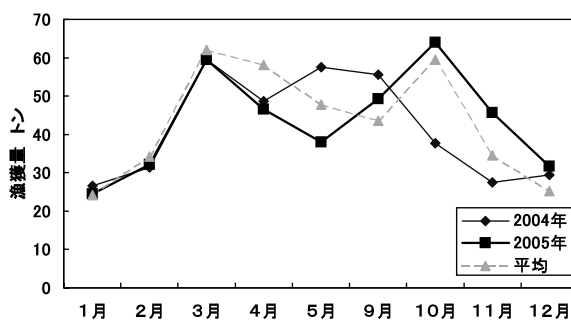


図2 ヒレグロの月別漁獲量の比較

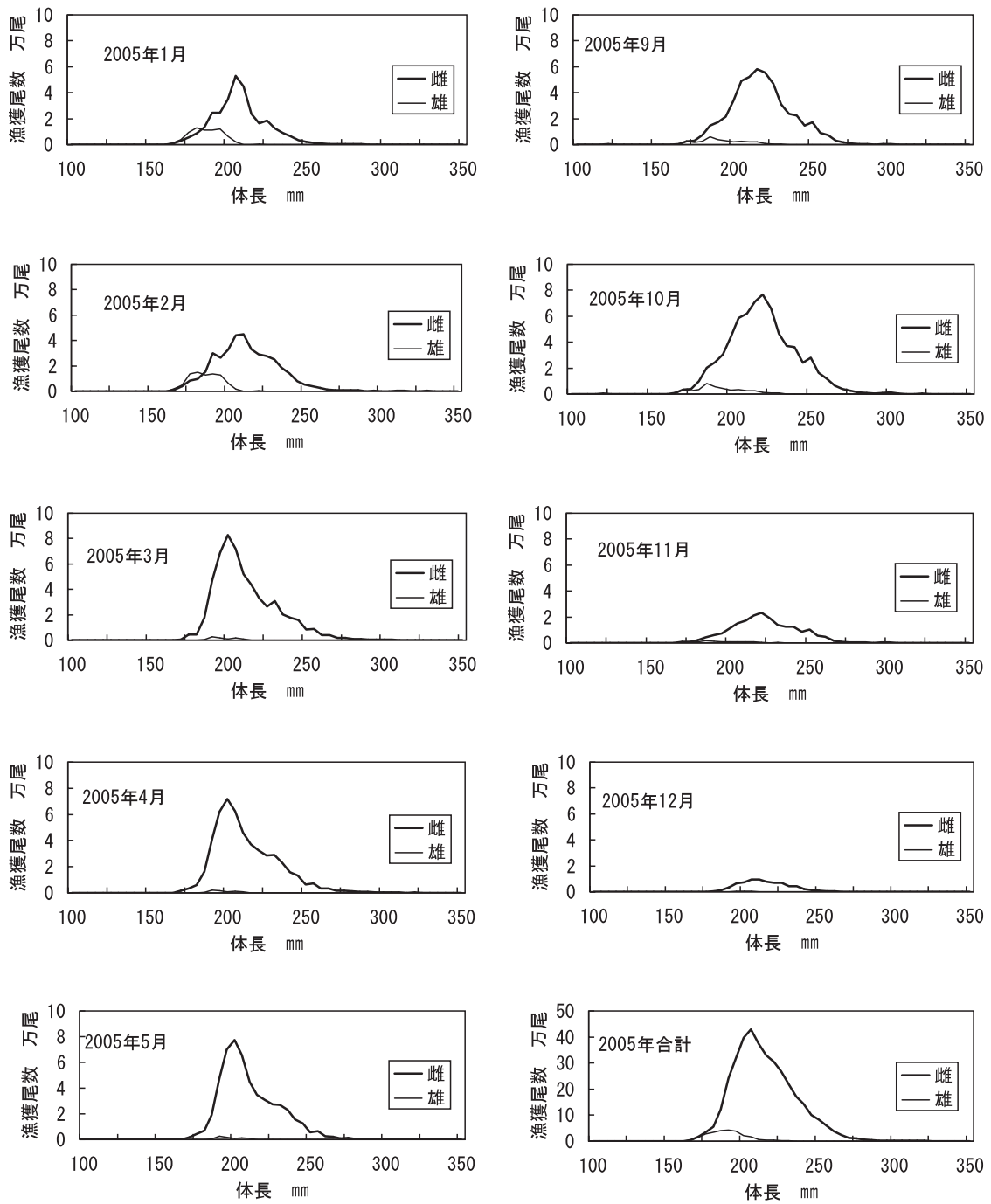


図3 鳥取県におけるヒレグロの月別雌雄別体長別漁獲尾数

